

目次

一、調查對象

二、調查方法及調查時期

三、調查事項

四、集計概要

(一) 地區別

其ノ

一、關東、東海、近畿

- (イ) 蛋白質給與量
- (ロ) 動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率
- (ハ) 熱量給與量
- (ニ) 主食熱量ノ總熱量ニ對スル比率
- (ホ) 食費
- (ヘ) 地区別ヨリ見タル給與栄養量
- (ト) 業態別ヨリ見タル給與栄養量
- (三) 地区別 其ノ二 中國、九州
- (イ) 蛋白質給與量
- (ロ) 動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率
- (ハ) 熱量給與量

- (ニ) 主食熱量ノ總熱量ニ對スル比率
- (ホ) 食費
- (ヘ) 地区別ヨリ見タル給與栄養量
- (ト) 業態別ヨリ見タル給與栄養量

五、概

括

又、同一工場ニ就テ拾七年度調査成績トノ比較

附 表

- 第一號 (其ノ一—八) 地区工場別集計表
- 第二號 (其ノ一—六) 業態別集計表
- 第三號 (其ノ一—三) 同一工場ニ就テ昭和十七年度トノ比較

對 照 表

一、調査対象

厚生省勤労局ノ選定セル内地所在ノ工場八四、東三七、東海二五、近畿四〇、中国三、九州一一、總計一六六ニ耐屬スル調理場ヨリ給食ヲ受ケツソアル重要事業場労務者。

二、調査方法及調査時期

一定縦型ノ調査票ニヨリ食卓人員、食費、配給食品、消費量ヲ記入セシメタリ。

調査時期ハ、昭和十八年五月十日ヨリ六月二十七日ニ至ル間ニ於ケル七日間（但シ中国、九州地区ハ一日間）ナリ。

三、調査事項

食品ノ給与量ヨリ總蛋白質、動物性蛋白質、總<sup>三六</sup>熱量、主食熱量ヲ平均一人一日當量トシテ次ニ算出セリ。但シ、肉食並ニ殘食量ニ就テハ、之ヲ計算ニ加ヘズ。

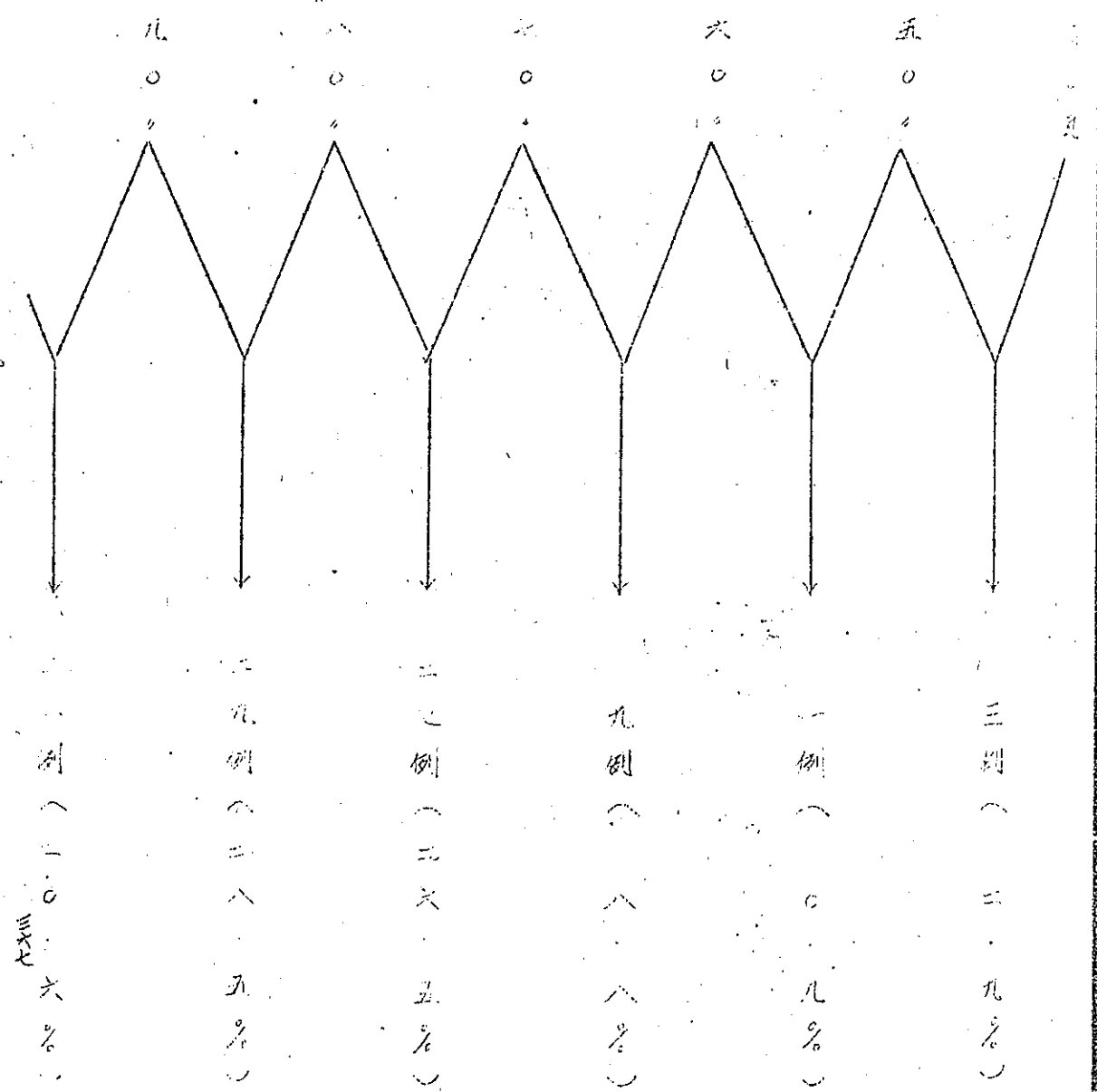
#### 四、集計概要

##### (一) 地區別 其ノ一

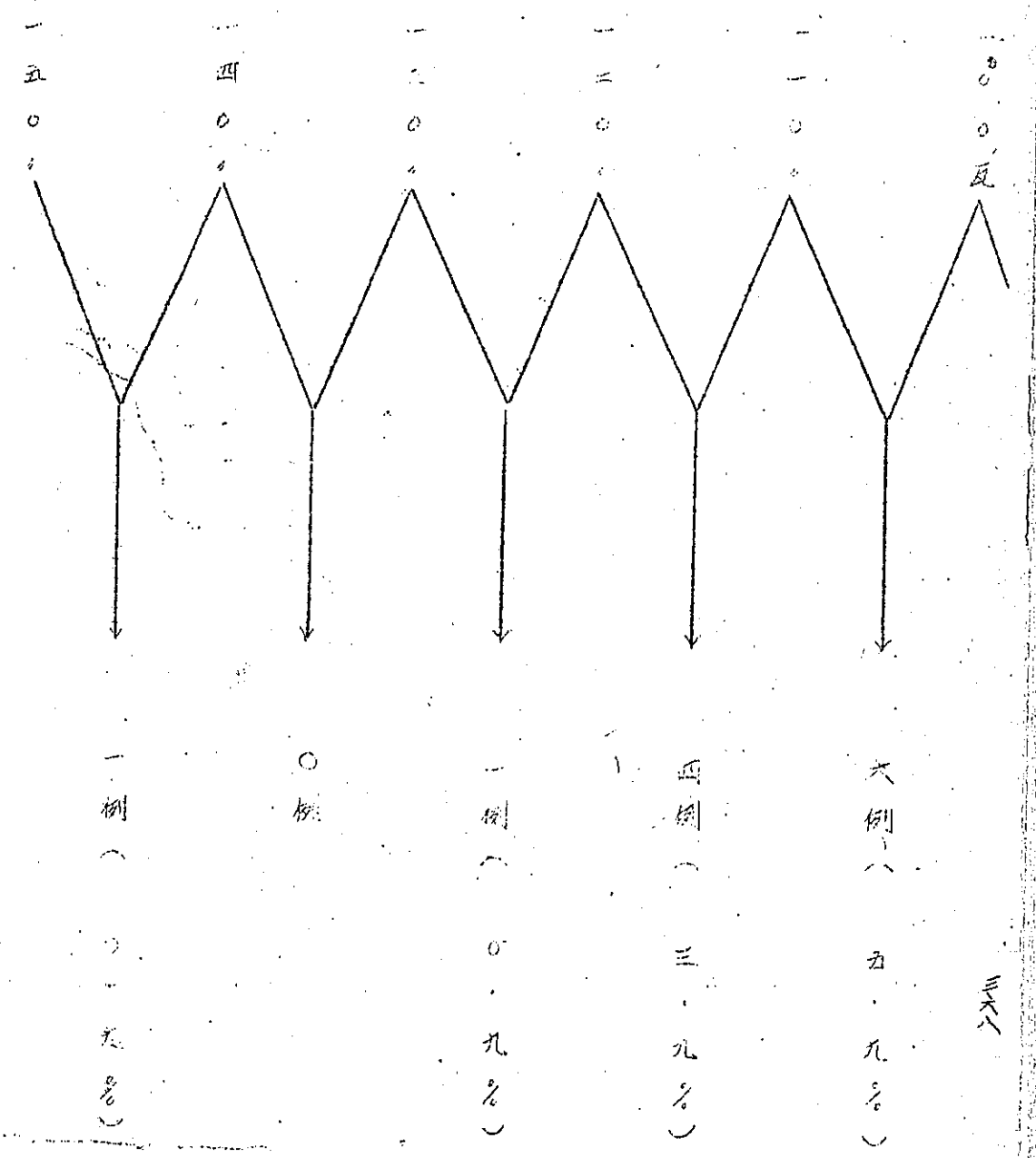
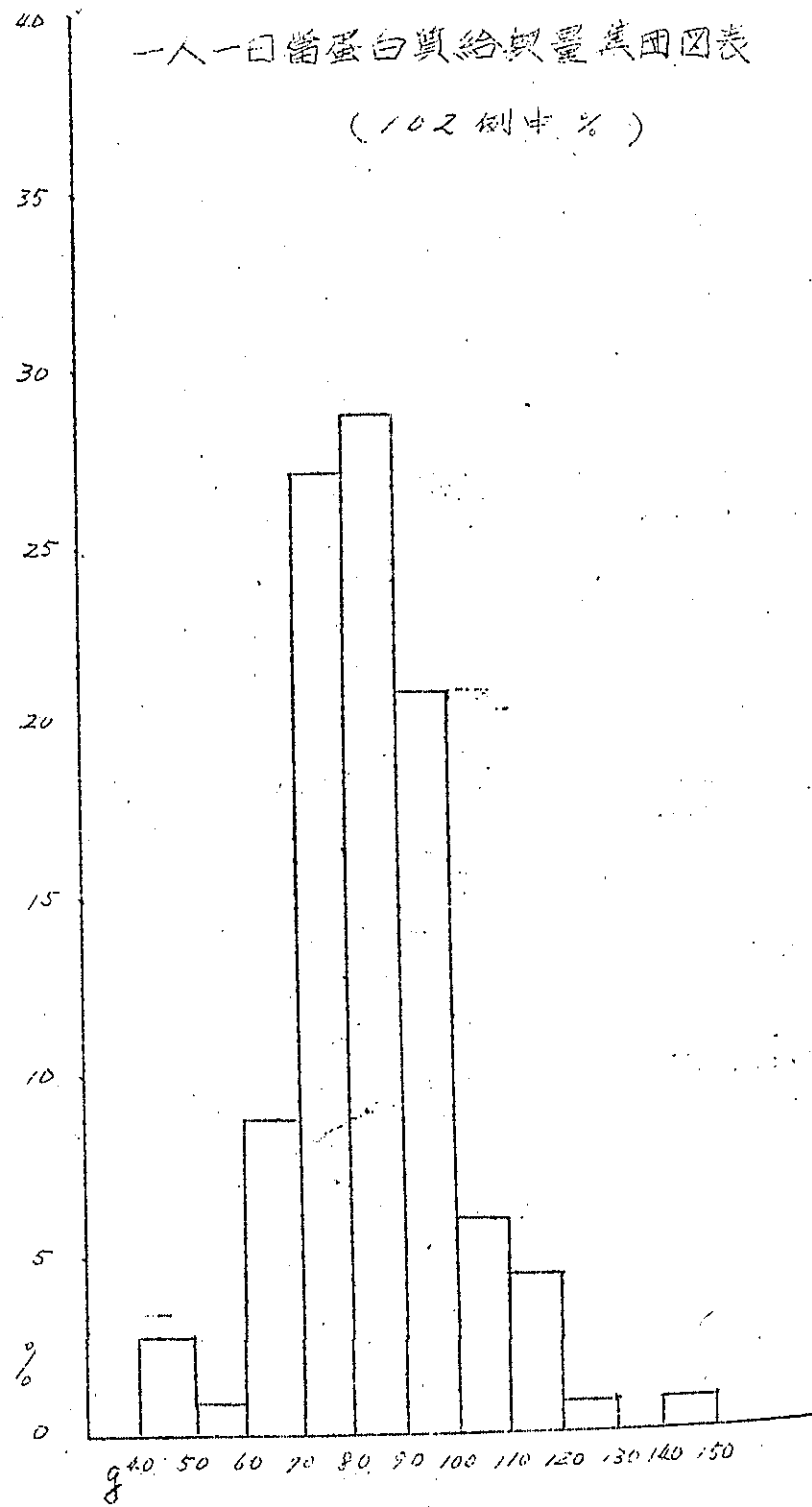
関東、東海、近畿地区(一〇ニ工場)ニ於テハ七日間ノ給与量ヨリ平均一人一日當量ヲ算出シ、附表カ一号其ノ一——六ニ表示ス。

##### (4) 蛋白質給與量

最高一四一・〇瓦、最低四二・二瓦、平均八五・四瓦、七〇——八〇瓦カ一〇ニ例中ニ七例ニシテ、二六・五%ヲ占ム  
一日當給與量



一人一日當蛋白質給與量其團圖表  
(102例中%)



三八九

三八八

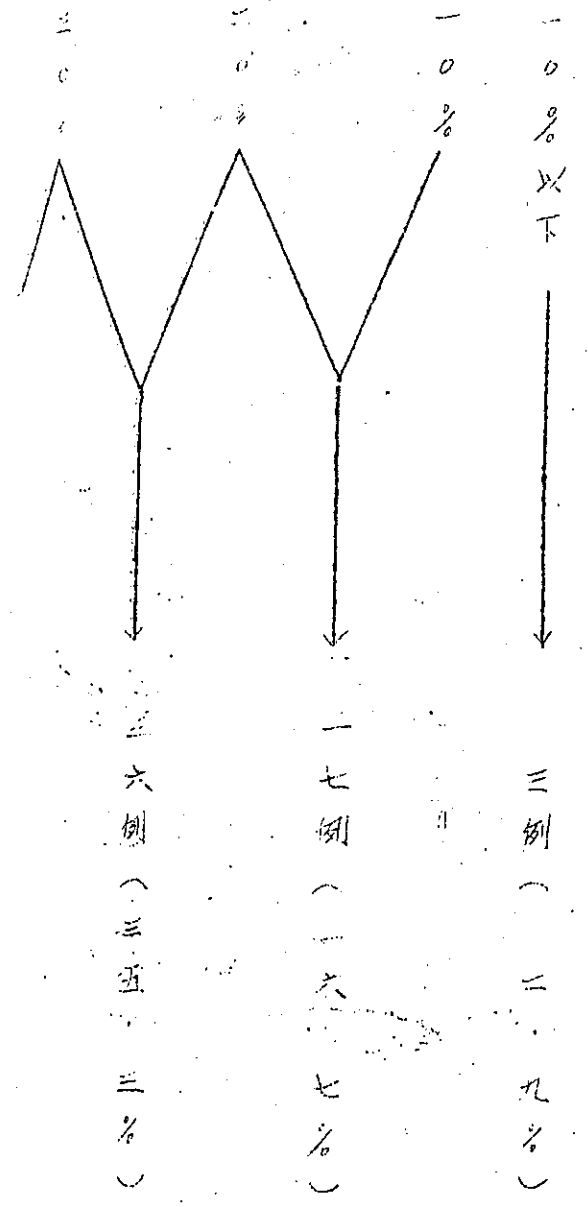
四) 動物性蛋白質ノ總量ニ對スル比率

三七

最高五四・二名、最低一・二名、平均二七・六名。八組シ魚介等ノ不可食部ハ控除スルコトナク計算セルモノナリ

二〇——三〇名ガ一。二例中三六例ニシテ、三五、三三名ヲ占ム

一日當給與量



熱量給與量

最高 九六・七カリリ、最低 一八・八カリリ、平均 二三七・五カリリ  
 一〇——二四九・九カリリ、一〇二例中三七例ニシテ、三六・四%ヲ占ム  
 五〇——二七九・九カリリ、一〇二例中三四例ニシテ、三三・二%ヲ占ム

三七

二 管給與量

二〇〇〇カワリ

以下

五例 (四・九%)

二〇〇〇カワリ

七例 (六・九%)

二一〇〇

一四例 (一三・八%)

二三〇〇

一〇例 (九・八%)

二五〇〇

一六例 (一五・七%)

二四〇〇

一一例 (一〇・九%)

二五〇〇カワリ

二〇例 (一九・六%)

二六〇〇

一三例 (一二・七%)

二七〇〇

一〇例 (九・九%)

二八〇〇

三例 (二・九%)

二九〇〇

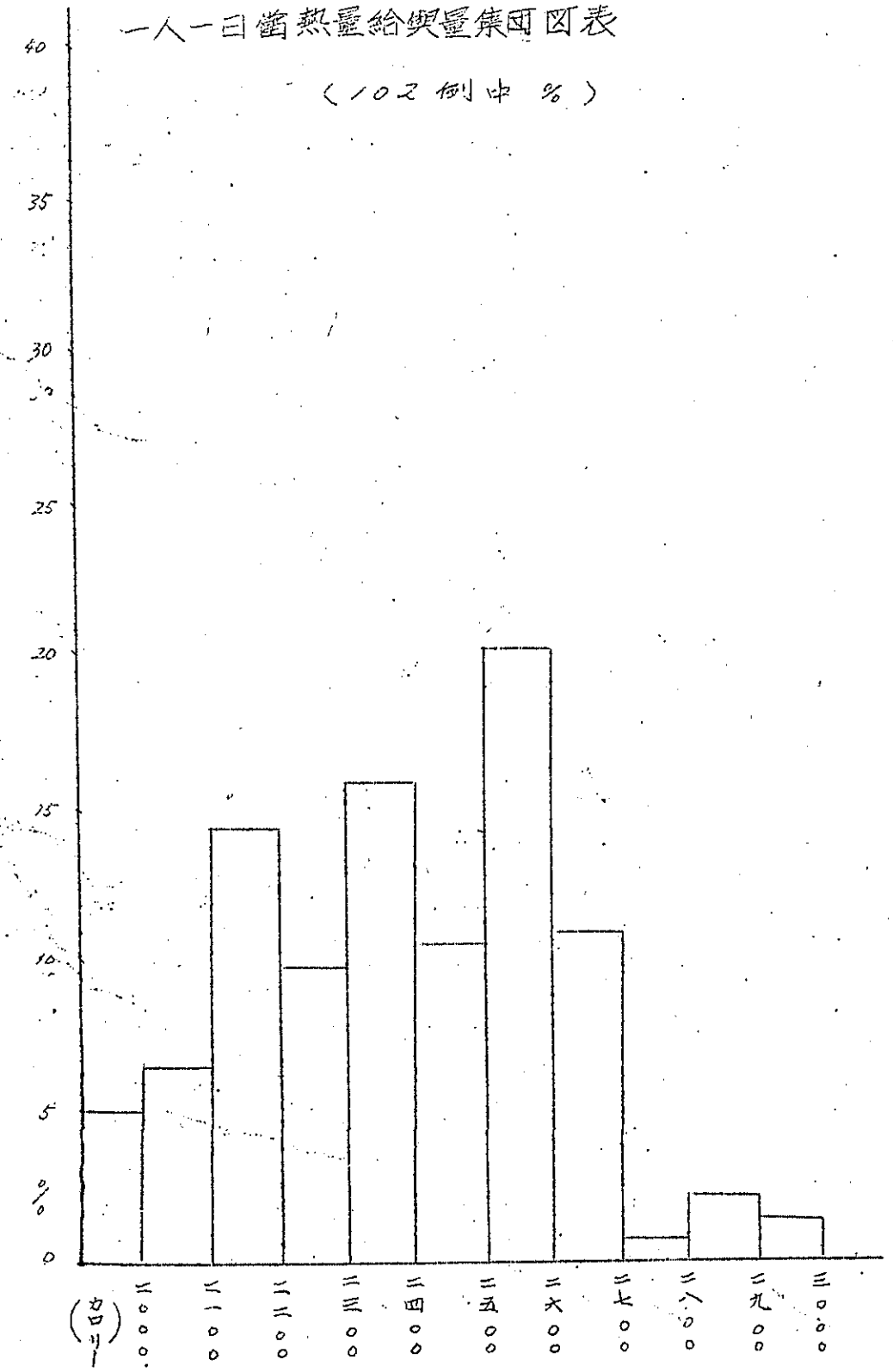
二例 (二・〇%)

三〇〇〇

三三三

一人一日當熱量給與量集團圖表

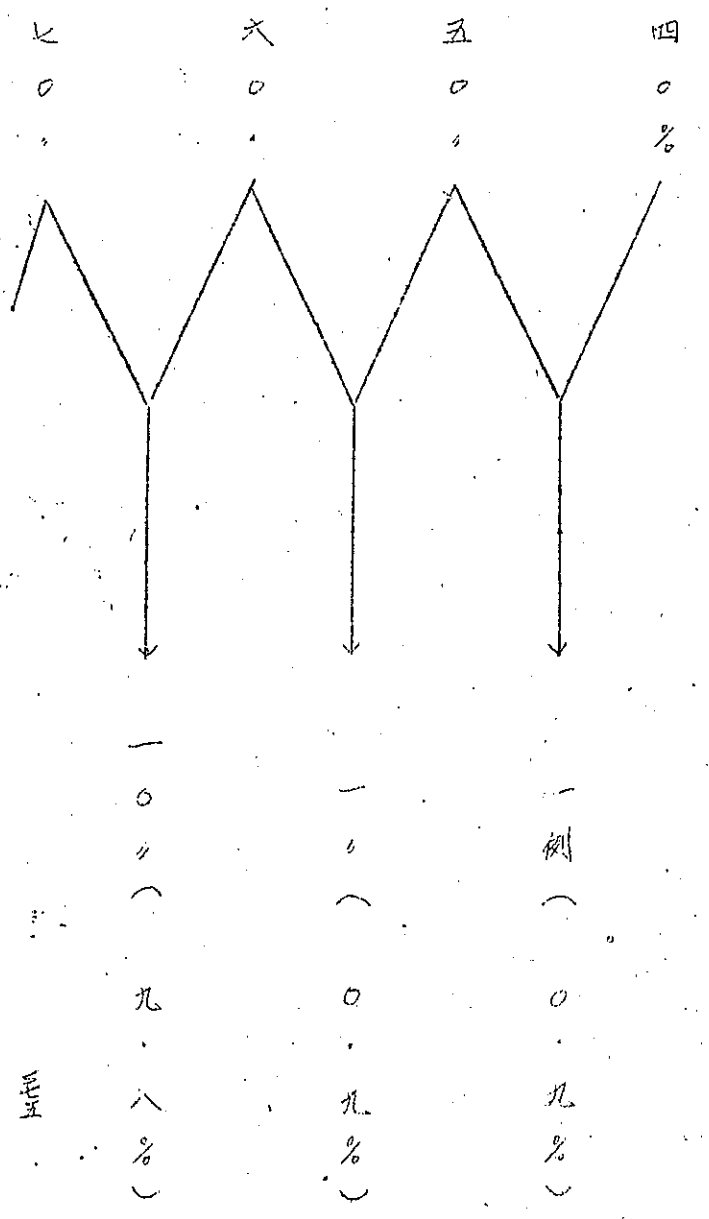
(102例中%)



(一) 主食熱量ノ總熱量ニ對スル比率

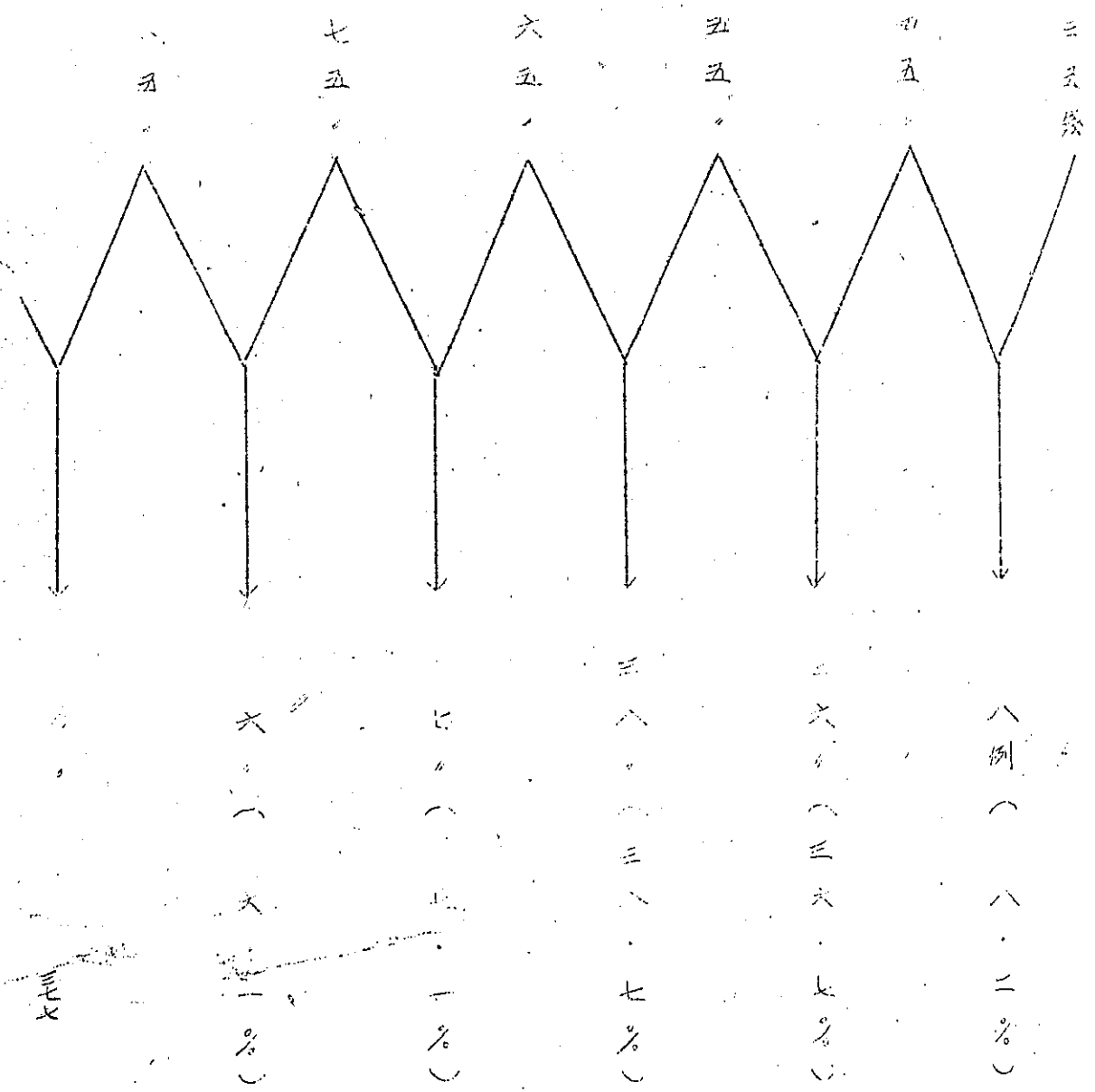
最高九四・七%、最低六三・二%、平均七八・〇%、七〇—九〇%ガ一〇二例中八七例ニシテ八五・二%ヲ占ム

一日當給與量



三五

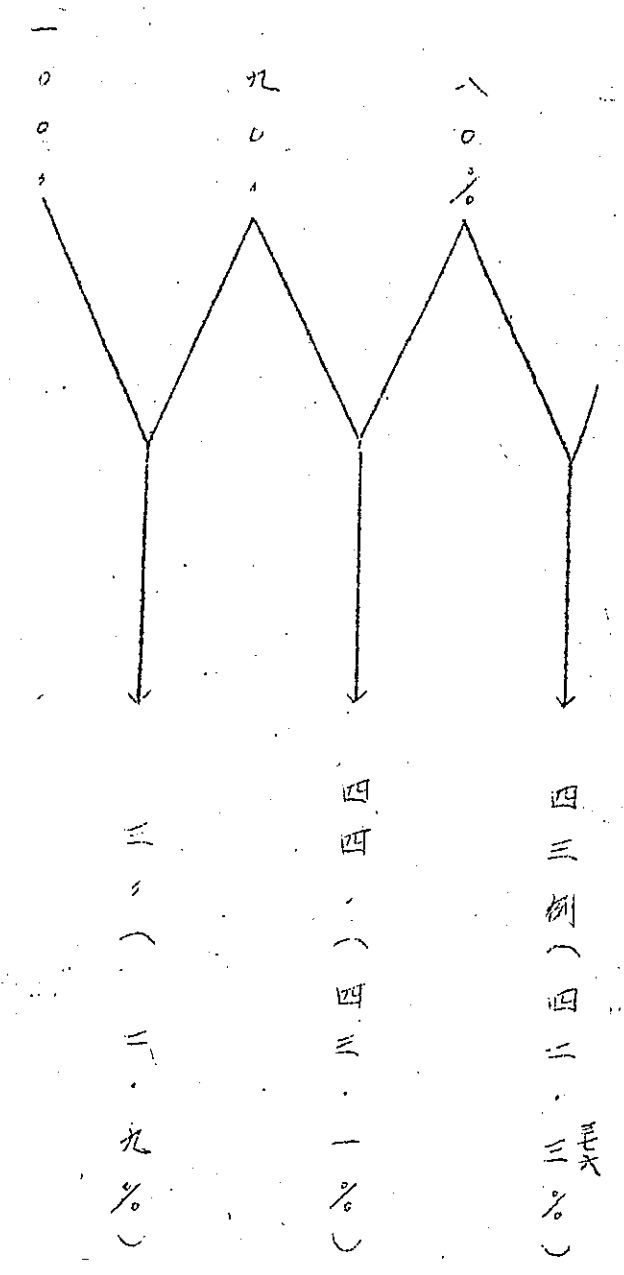


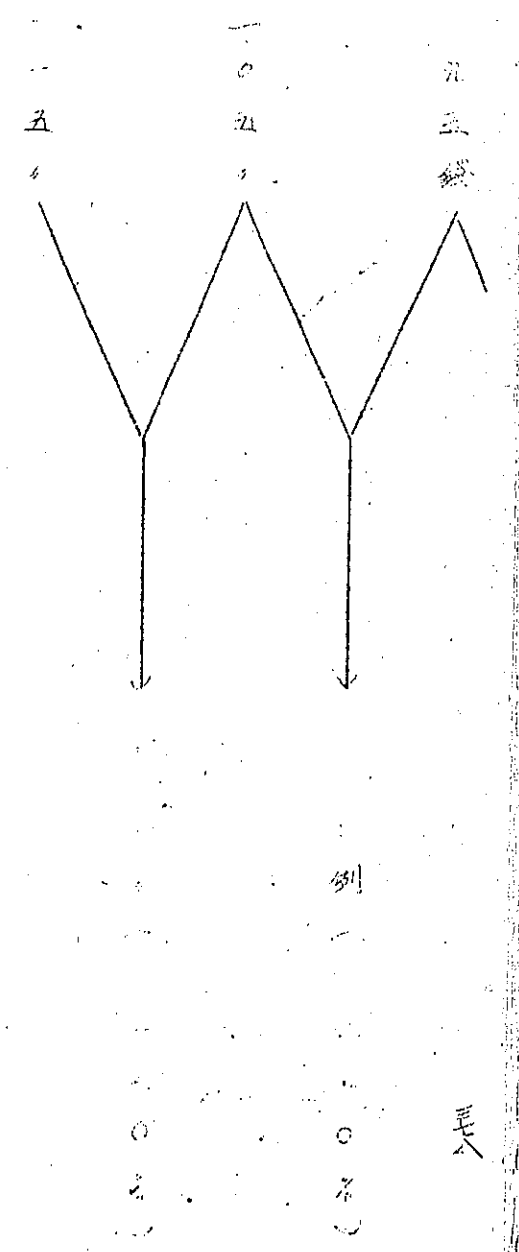


一日當食費

最高一日〇八錢、最低三六錢、平均五九・八錢。三六—七五錢が九八例  
中八九例ニシテ九〇・八ヲ占ム

(水) 食費





(ウ) 地区別ヨリ見タル給与栄養量

総熱量ハ東海ノ二四三・一キロカロリー、近畿ノ二四一・六キロカロリー、関東ノ二二九・三キロカロリーノ順。

蛋白質量ハ近畿ノ八八・一グラム、東海ノ八六・六グラム、関東ノ八一・九グラムノ順。

動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率ハ近畿ノ二八・九%、関東ノ二七・

二%、東海ノ二五・七%ノ順ナリ。

(ハ) 業態別ヨリ見タル給与栄養量

総熱量ハ金屬工業ノ二四六・三キロカロリー、化学工業ノ二四一・四キロカロリー、機械器具工業ノ二三六・四キロカロリー、紡績工業ノ二一〇・五キロカロリーノ順。

蛋白質量ハ化学工業ノ九二・八グラム、金屬工業ノ九〇・四グラム、紡績工業ノ八五・二グラム、機械器具工業ノ八三・七グラムノ順。

動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率ハ紡績工業ノ三五・五%、金屬工業ノ二八・六%、機械器具工業ノ二七・四%、化学工業ノ二七・〇%ノ順ナリ。

(ニ) 地区別 頁ノ二

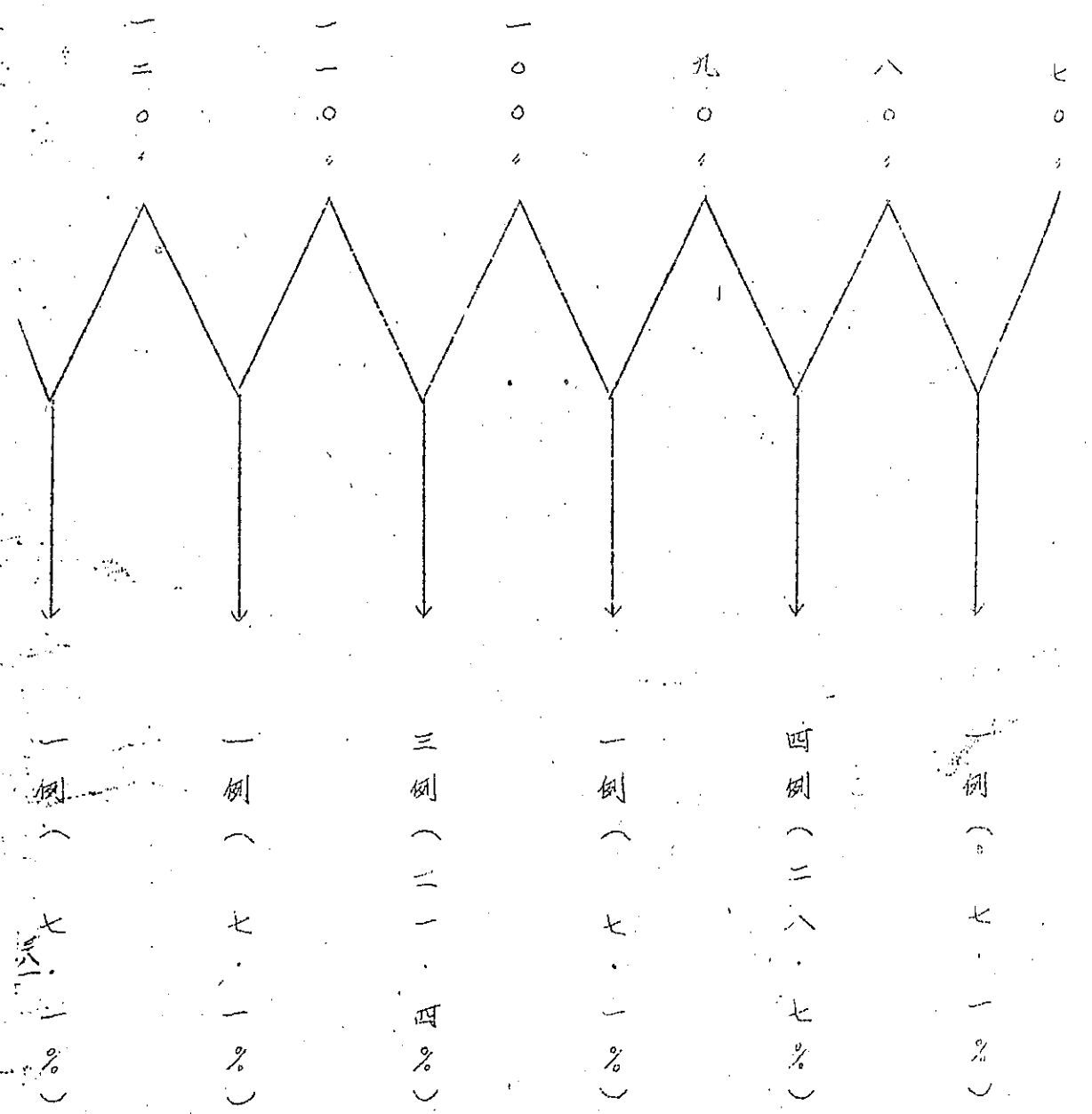
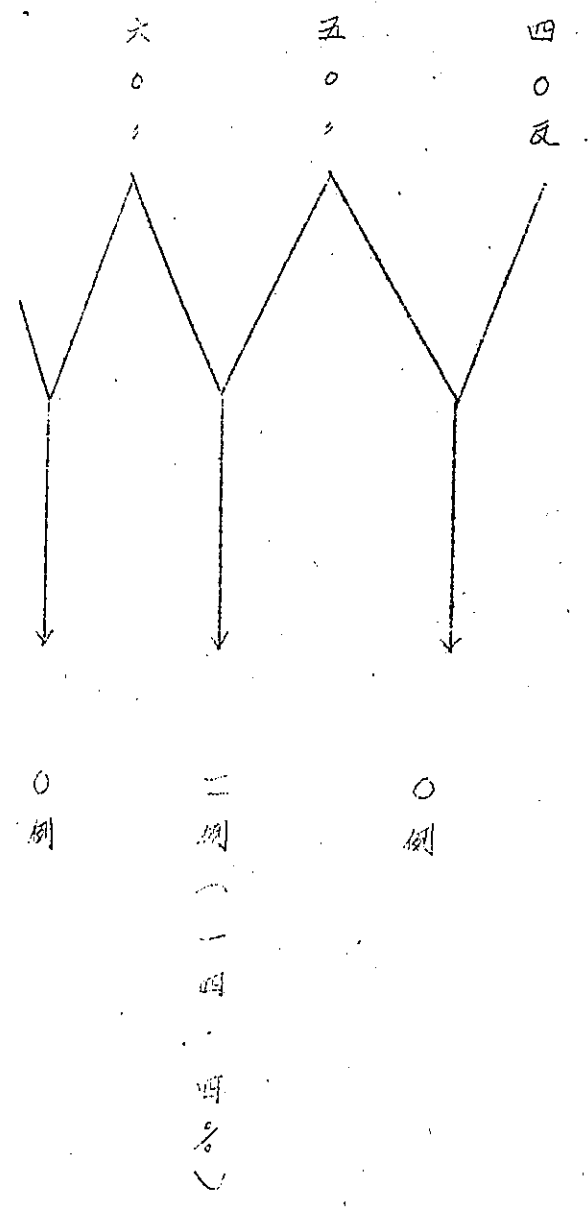
中國、九州地區（一四工場）ニ於テハ、一日給與量ヨリ算出シ、附表第  
 一號其ノ七、其ノ八ニ表示ス。

(1) 蛋白質給與量

最高一四二・九五、最低五六・二四瓦、平均九一・九二瓦、七〇―九〇

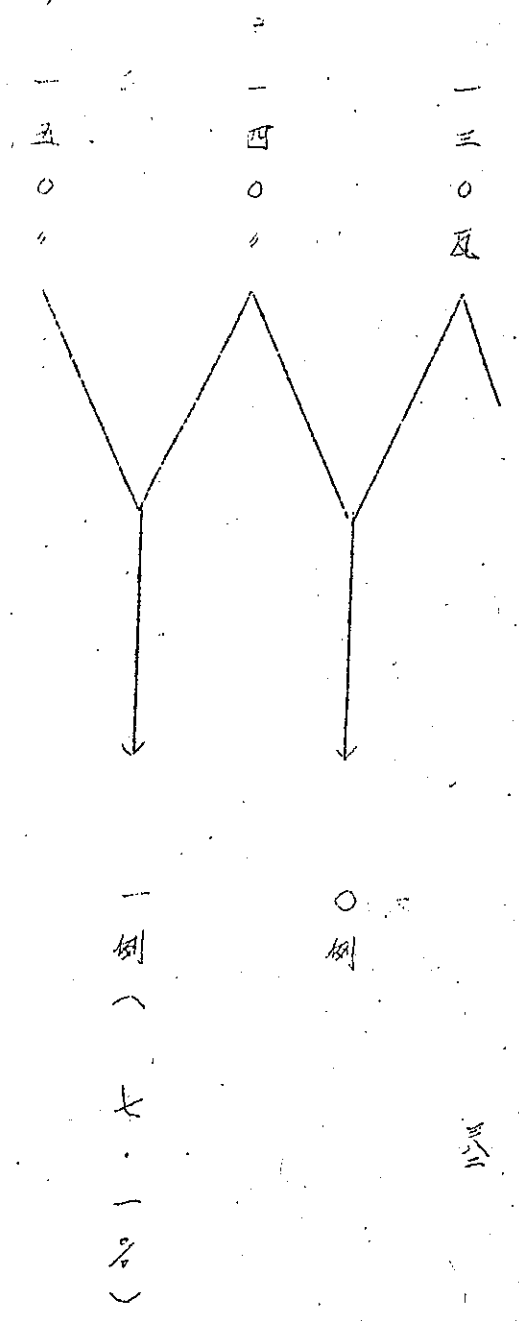
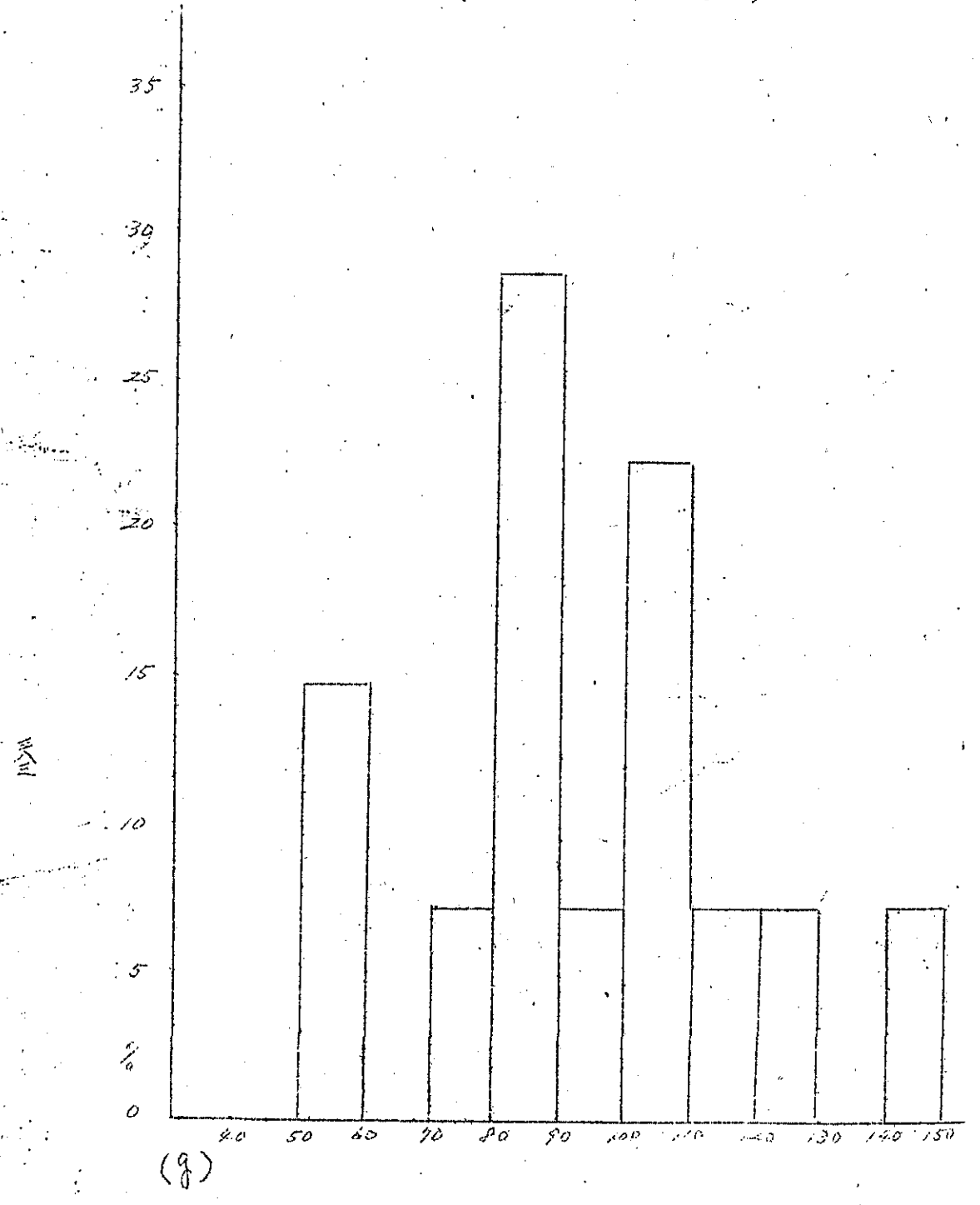
反カ一四例中五例ニシテ三五・七ヲ占ム。

一日當給與量



一人一日蛋白質給與量集團圖表

(14例中%)



一例 (七・一%)

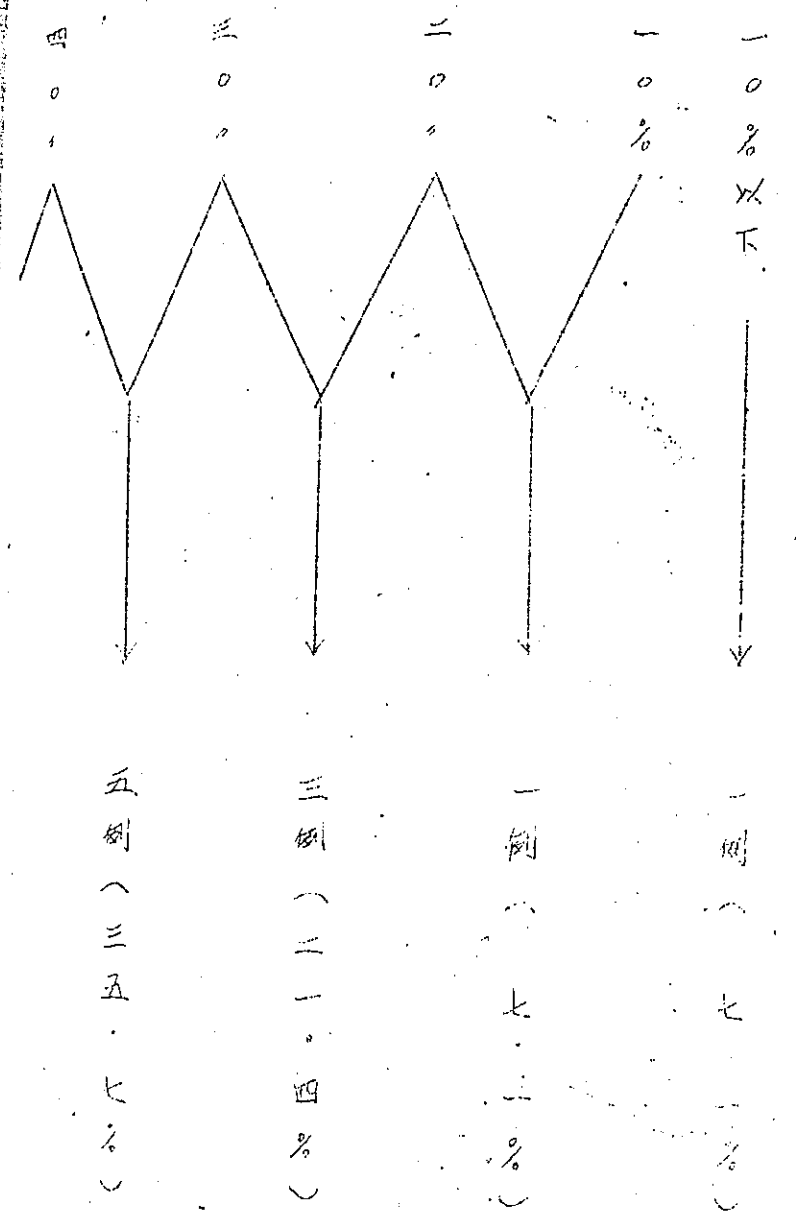
〇例

三二

(四) 動物性蛋白質、總蛋白質ニ對スル比率

最高五三・四％、最低七・〇％、平均二七・四％  
 中三例ニシテ二一・四％ヲ占ム

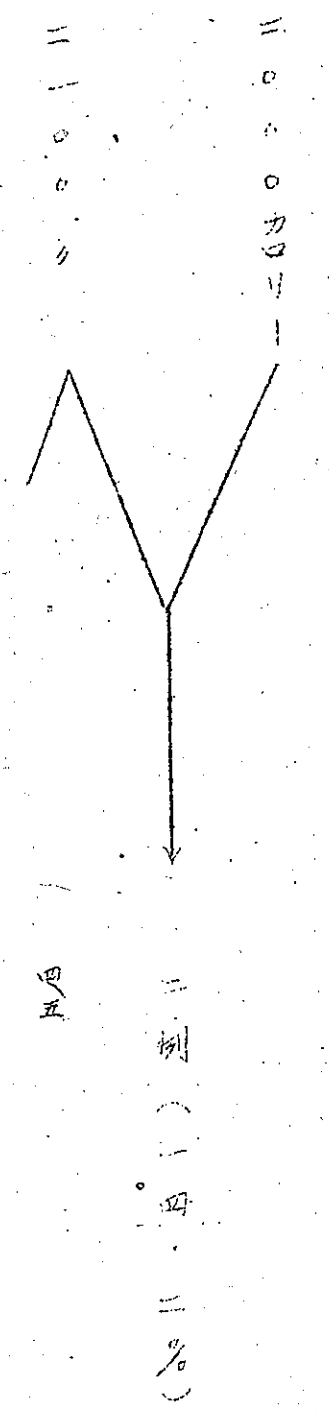
一日當給與量

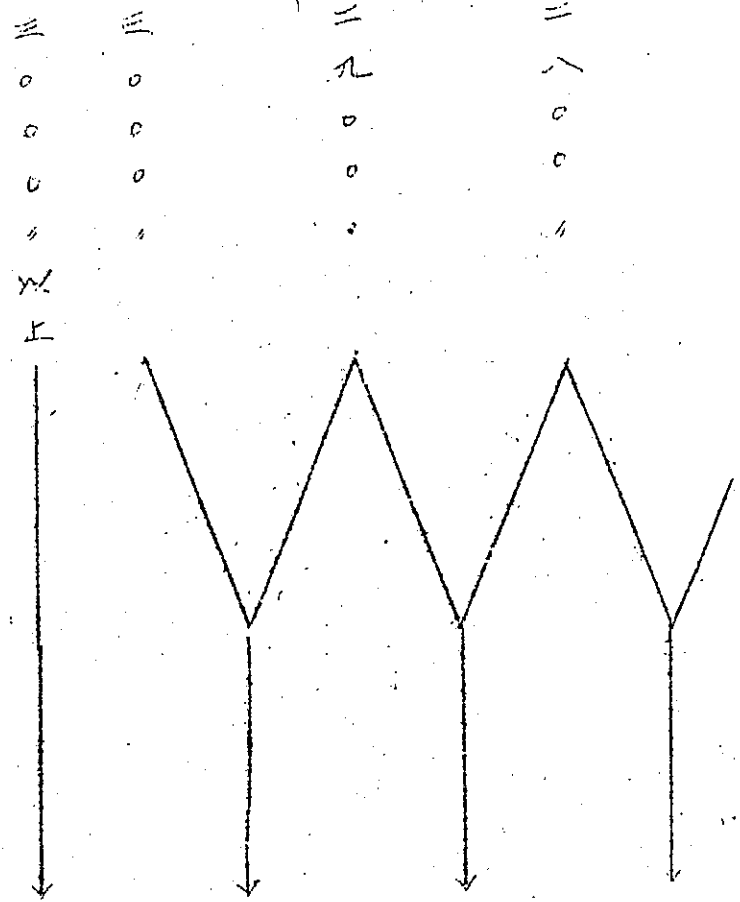


(五) 熱量給與量

最高三三七八カロリー、最低二〇八六カロリー、平均二五五七カロリー  
 二二〇〇―二六〇〇カロリーカ一四例中五例ニシテ三五・七％ヲ占ム

一日當給與量

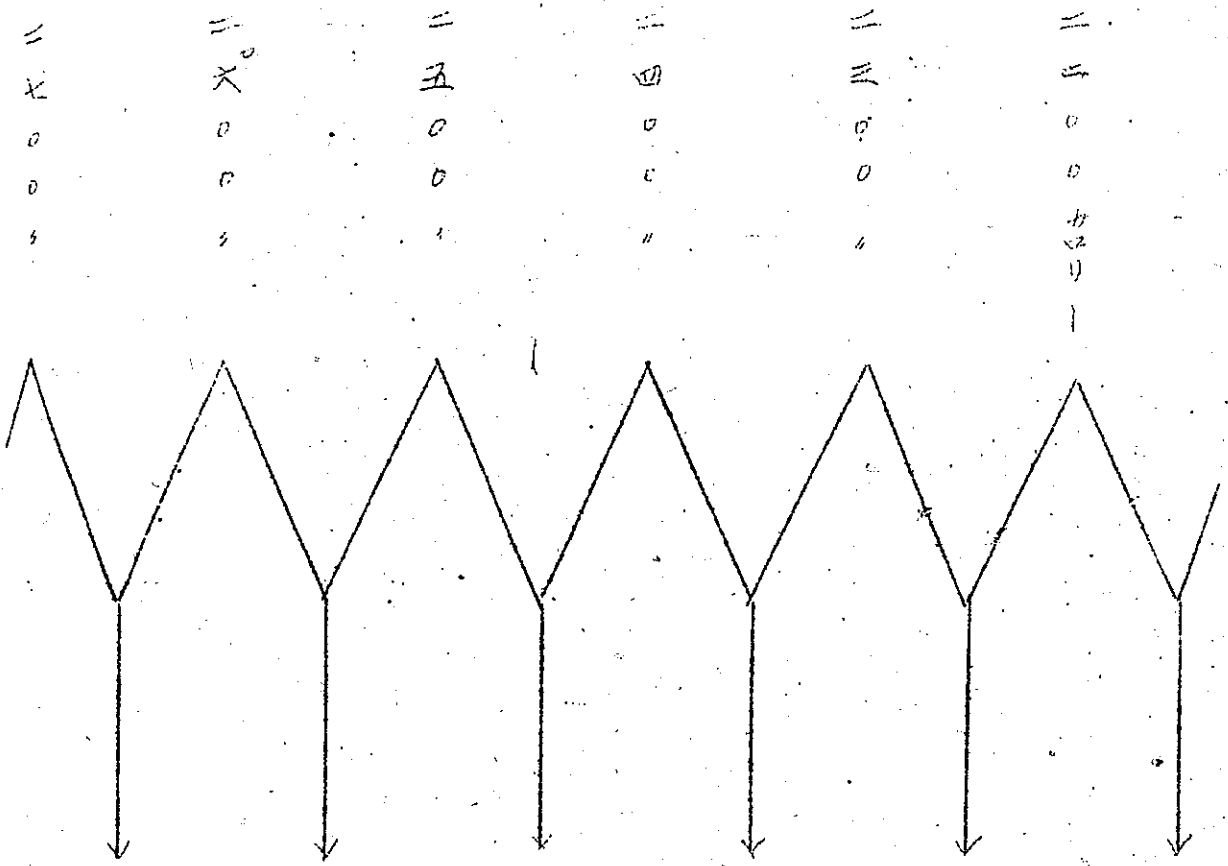




三例 (二一・四%)

一例 (七・一%)

三全



二例 (一四・二%)

一〇例 (七・一%)

一〇例 (七・一%)

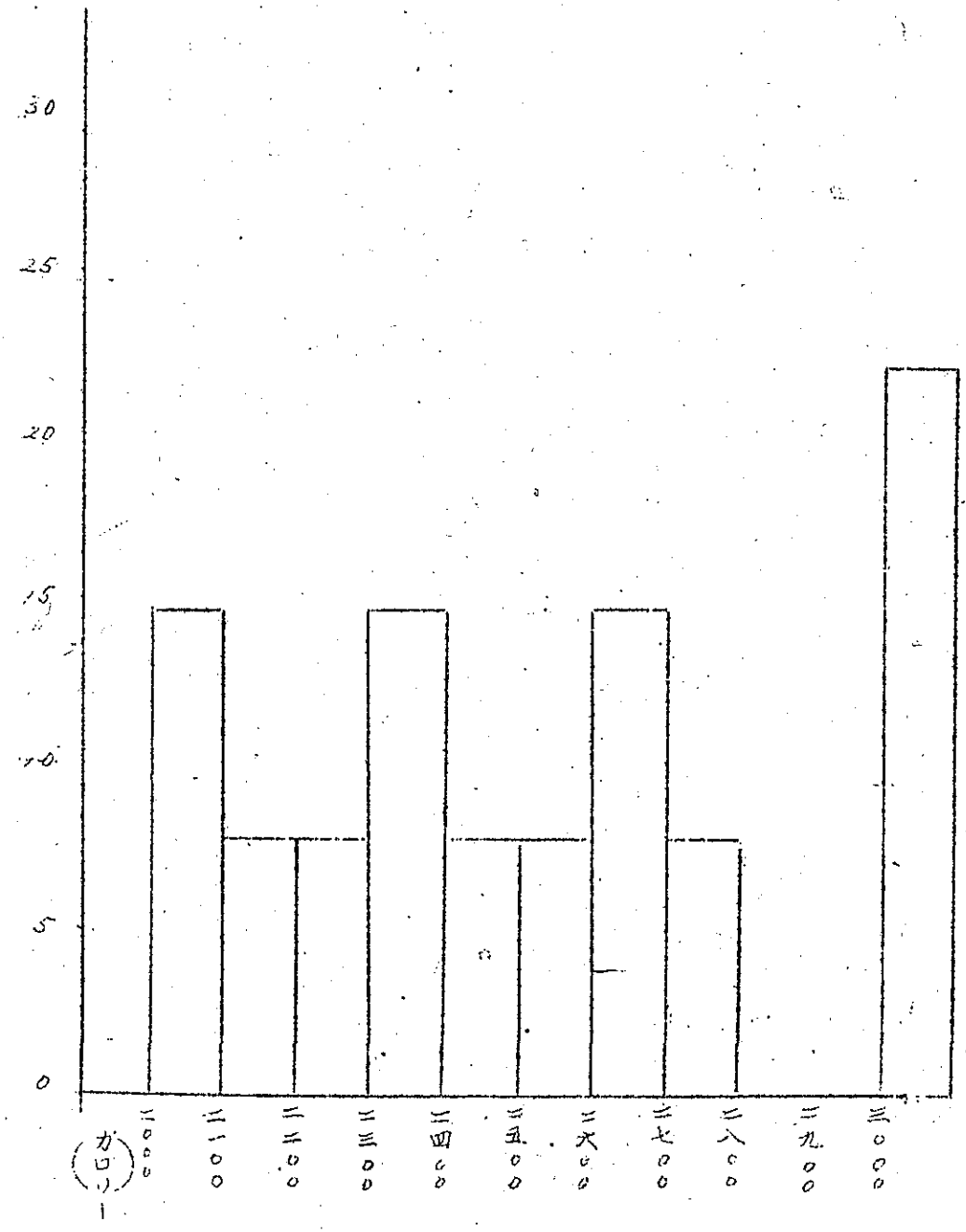
二例 (一四・二%)

一〇例 (七・一%)

一〇例 (七・一%)

一人一日當熱量給與量集團図表

(14例中%)



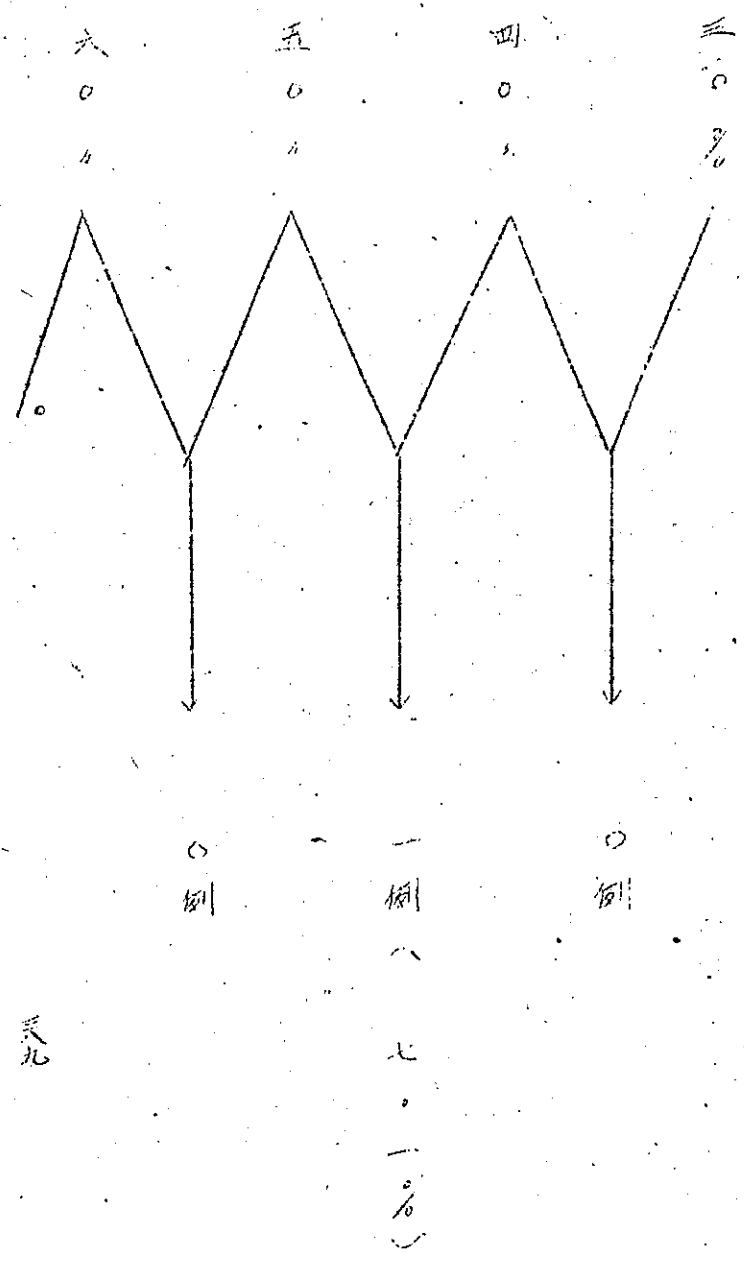
三入

(四) 主食熱量ノ總熱量ニ對スル比率

最高八八・〇％、最低四三・一％、平均七一・四％。七〇―九〇％が一

四例中凡例ニシテ六例ニ名ヲ占ム

一日當給與量

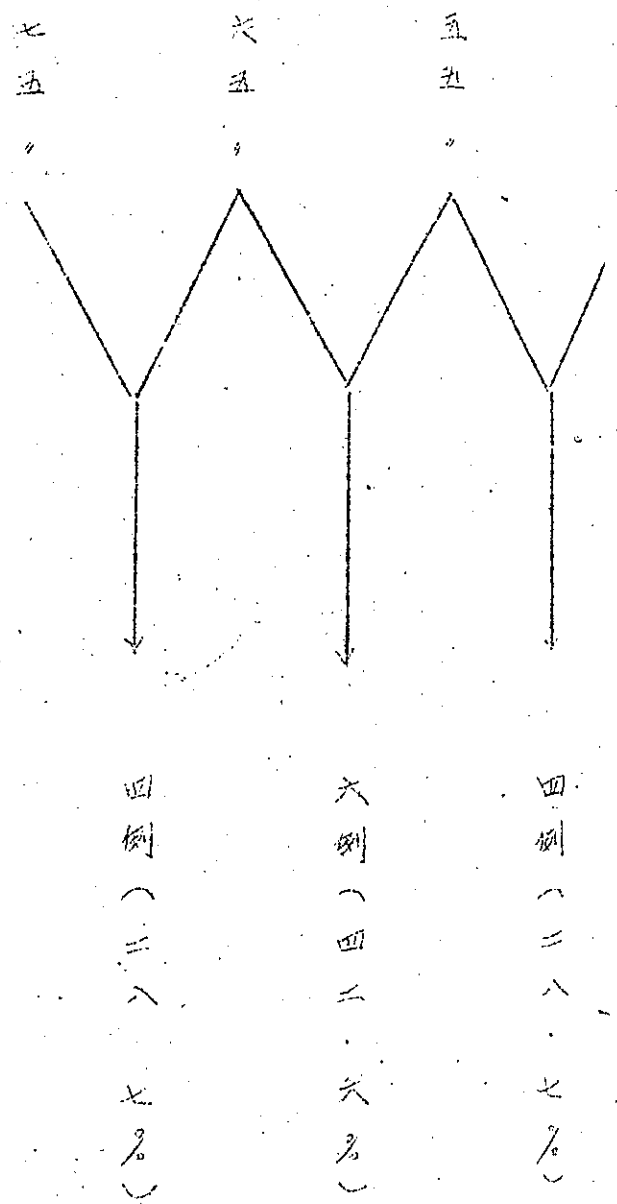
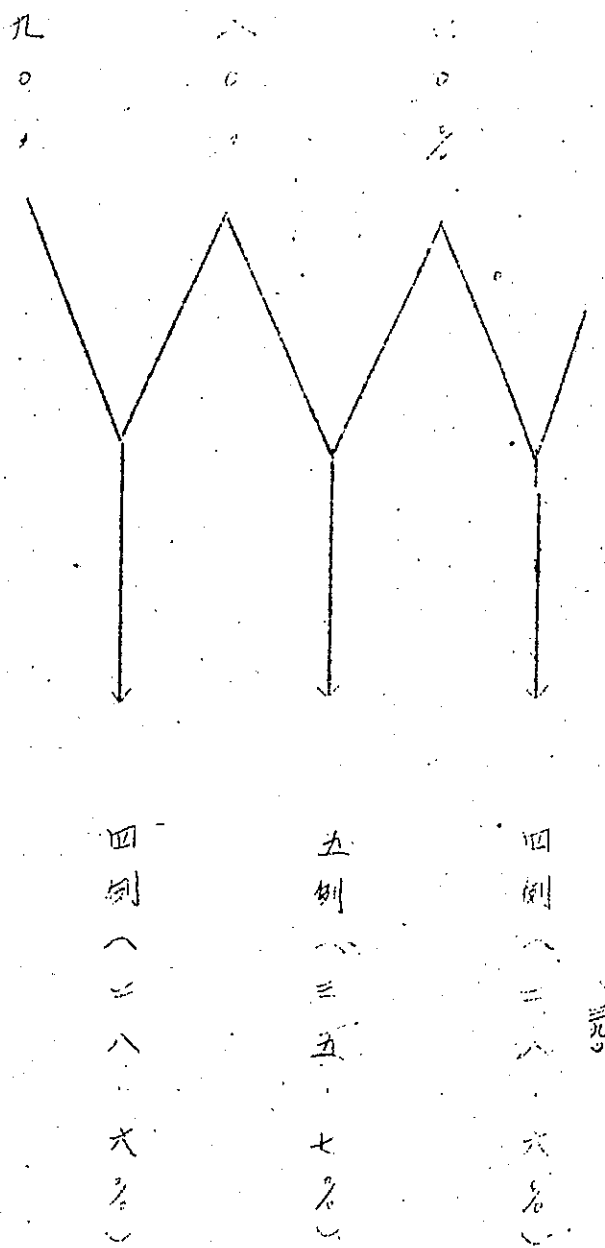


三九

丙) 食費

最高七五銭、最低四六銭、平均六二、四銭ナリ、  
一日當食費

四五銭



(ハ) 地区別ヨリ宛タル給与米量

總熱量ハ半圓ノ一六六五カロリ、九州ノ二五二一カロリノ順。

蛋白質量ハ九州ノ九六・三、中国ノ八七・五瓦ノ順。

動物性蛋白質ノ總蛋白質量ニ對スル比率ハ九州ノ三五・九、中国ノ一八・



ハノ順ナリ

(+) 米類別ヨリ見タル給与米養量

總給量ハ化學工業ノ二七六六カリリ、機械器具工業ノ二六五〇カリリ

金屬工業ノ二三六五カリリノ順

蛋白質量ハ化學工業ノ一八〇五、金屬工業ノ九九・三瓦、機械器具

工業ノ八九・二瓦ノ順

動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率ハ化學工業ノ三七・七%、金屬工

業ノ三二・二%、機械器具工業ノ三一・七%ノ順ナリ

五 概 括

昭和拾八年度調査対象ノ重要事業場労働者ニ對スル平均給与米養量ハ、

関東 東海 近畿三地区ハ七日間ノ給与量ヨリ一人一日当ヲ集計シニ於テ

ハ熱量ニ三七五カリリ、蛋白質量ハ五・四瓦ニシテ又中國、九州ニ地区

ハ一日ノ給與量ヨリ一人一日当ヲ集計シニ於テノ平均給与米養量ハ熱量ニ

五五七カリリ、蛋白質量ハ四・四瓦ナリ、此ノ量ハ嚮ニ國民米養部ニ於テ

求メタル日本ノ米養標準純攝取量ノ中等労働成年男子ノ標準ニ於テ

熱量ニ四〇〇カリリ、蛋白質ハ二瓦ニ概不該當ス、又動物性蛋白質ノ總

蛋白質ニ對スル比率ハ二七・六%及ニ三三・三%ニシテ、日本人平均一人一

日當標準量ニ五・〇%ヲ越ユルヲ見ル、但シ本調査ノ給與量ハ攝取量ニア

ラズ、殊ニ急介類等ヲ不可食部、食糞量ノ大ナルコトヲ念頭ニ置クヲ要ス、

六 同一工場ニ於テ拾七年度調査成績トノ比較

昭和拾七年度調査成績の概況  
一、集計報告の概況  
二、回収率の概況  
三、工場ノ調査結果

ヲ如ヘ、再々集計セルヲ以テ、附表中ニ号別ノ一、二、三ニ表示ス。  
此ノ内ヨリ今年度調査ニモ包含サレラルル同一工場、関東三、東海四、近畿一四、九州三ヲ抽出シテ平均値ヲ求メ本年度ノ夫レトノ比較ヲ試ミントス。

拾七年度分ノ平均熱量ニ四〇五カロリー、蛋白質七八・六反、動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル比率ニ七五・九％、食費四七・四錢ナリ。

之ニ對シ、昭和拾八年度分ノ平均熱量ニ四〇〇カロリー、蛋白質八反七反、動物性蛋白質ニ對スル比率ニ七五・三％、食費五三・二錢ナリ。

即チ拾八年度ニ於テ八昨年度ニ比シ熱量五カロリー減、蛋白質一一・一

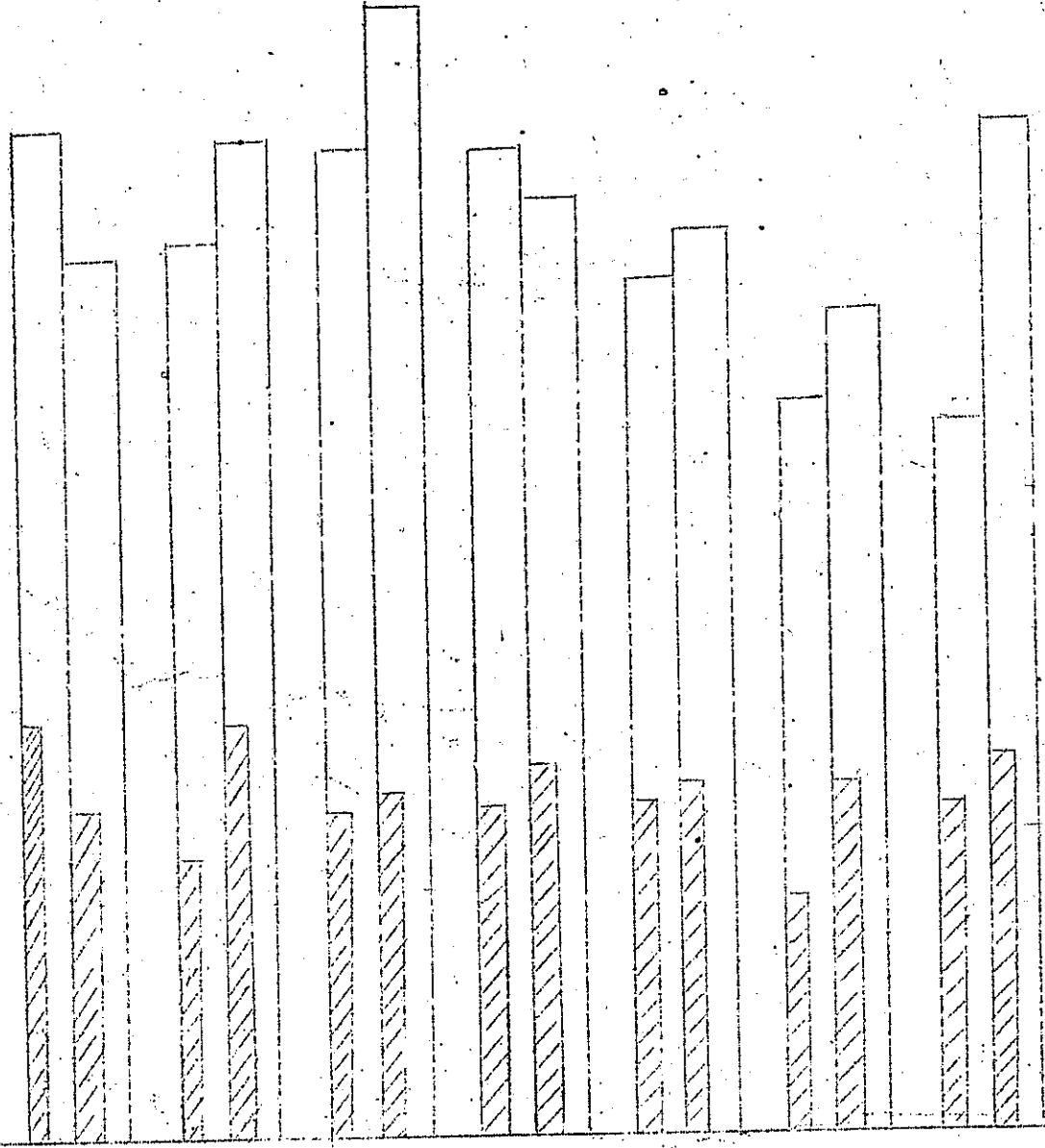
反増、動物性蛋白質ノ總蛋白質ニ對スル％五・四増、食費五・八錢増ナル

一、結果ヲ示ス

然レドモ以上ノ如ク、工場ニ就テノ比較ナルト調査時ノ季節ヲ異ニスル  
カ故ニ、以テ一般ヲ推スニハ定ラザルモノナルベシ。



三六八



高田兄弟製作所

株式会社

川崎重工業株式会社

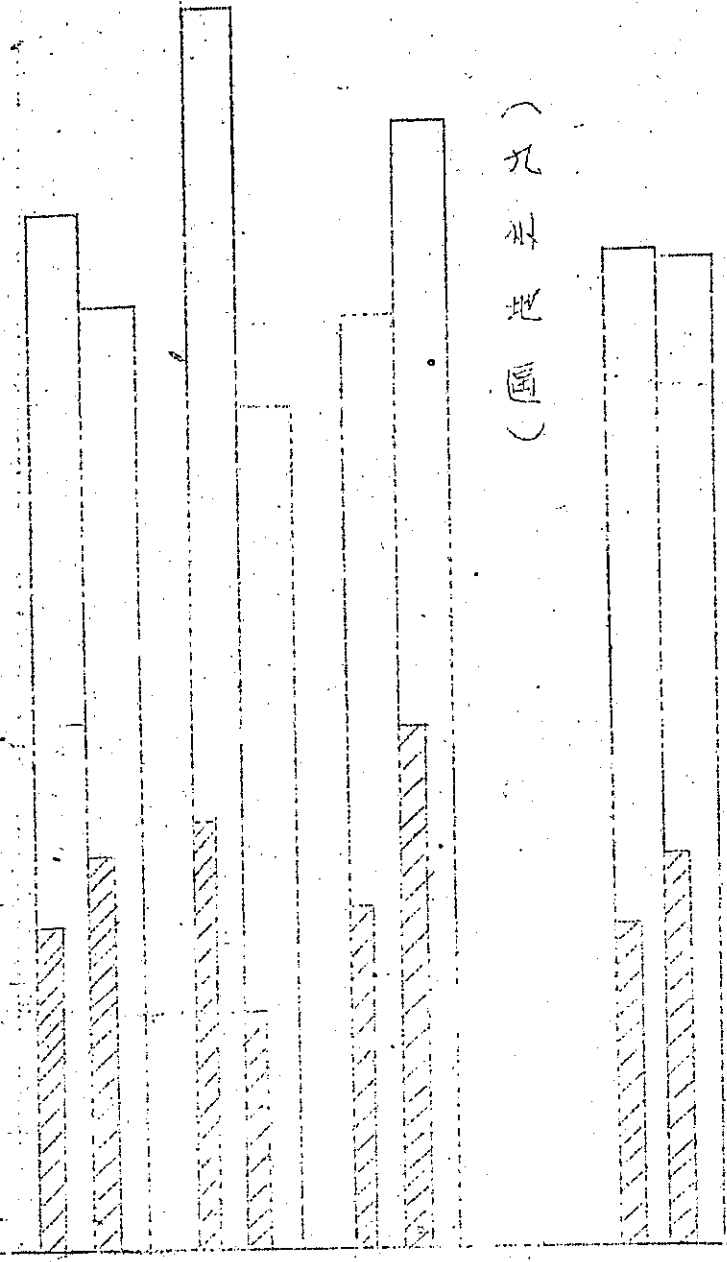
神戸製鋼所

三井製作所

寺内製作所

寿重工業株式会社

(近畿地区)



(九州地区)

株式会社

株式会社

株式会社

全国平均